

事業所名	そらふねfunfunクラブ(児童発達支援)	支援プログラム	作成日	6	年	4	月	1	日	
法人(事業所)理念	発達、子育て、地域生活の三つの支援を基本とする ・ ひとりひとりの特性に合わせたオーダーメイドな療育支援を提供する ・ 利用者及び保護者の思いや希望を尊重し、保護者への子どもに対する援助方法や情報等を提供しながら共に子育て支援を実施する ・ 生活と遊びを通して、基本的な生活習慣を獲得するための支援を行う									
支援方針	幼保等に通う子どもの成長発達(個別から小集団まで段階的に療育を提供)の可能性を最大限に引き出し、保護者と協力しつつ地域生活を支援していくことで集団適応能力を向上させていく									
営業時間	9	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	登園時の検温、健康観察、聞き取りを行い、健康不良時の把握を、いち早く行う。また、自らの体調について意識づけを行ったり、相手にそれを伝えられるようにしていく。健康を維持していくために、食べる事、清潔にすること、排泄、体を動かすこと等、意識できるようにしていく。また、支援者と共に計画を立てていくなどして継続的にできるようにする。 一日の生活を規則正しくするための、スケジュールの確立、また、そこを、どう変えていくかを支援者や保護者と話し合い、変更する。 登園の時、おやつ前、トイレに行った後の手洗い、おやつを食べた後のうがいや口の周りの確認、トイレ後の衣服の乱れを直す等、事業所の中での習慣と共に、家庭での生活習慣も見直し、その子に合わせた手順書やリマインダー等準備し、確立させていく。 食事の時のスプーンや箸、食器の持ち方、姿勢、着脱、片付け、身だしなみ等、その子の発達段階や学習スタイルを考えた個別の支援をしながら、確立に向けていく。 子どもたちの特性を見極め、手順表を作成したり、リマインダーを設置するなど、生活スキルの確立、定着を図るための特性に応じたツールを作成し、家庭とも協力していく。								
	運動・感覚	個別支援や、小集団活動で、椅子に座る場面での、正しい姿勢と、その保持について習慣づけていく。ただし、そのことだけに集中して、他のことが意識しづらい子どもには、話を聞くことを第一の課題とすることを家庭にも理解していただく。 押す、引っ張る、それを続ける力、トランポリン、リトミック、鉄棒、平均台、ボールプール、跳ぶ、くぐる、投げる等体幹や筋力を鍛える遊びに取り組み、姿勢の保持ができるようにしていく。 足置きを置く、背中を支えるマットを入れる、等補助的手段が必要な子どもには、家庭と相談して導入する。 運動をする時など、補助的役割及び安全面への配慮のため厚めのマットを敷くなどしていく。 視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して、遊具や器具を使った遊びを楽しく提供する。 目と手の協応動作、目と手足のタイミングなどを合わせた遊びを楽しみながら提供していく。本来苦手な縄跳びやボール遊びなどを通して、タイミングや見る位置など段階に応じてスモールステップで教えていく。 一人一人の感覚の特性に応じ環境調整(部屋の明るさ、音の調整、視覚刺激の調整、温度調節、部屋の白さの調整)や個々に対する補助具の使用を考える。(イヤマフ、感覚グッズ、保冷剤等)								
	認知・行動	障がい特性に応じて必要な情報を収集しやすいよう、絵カード、文字カード、色や音を利用してのキュー、必要な道具を使い認知機能の発達を促す支援を行う。 個別支援の中で、見える化された療育メニューや当日のメンバー表などを見る練習から始め、小集団の中に般化し、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう、一連の認知過程の発達を支援する。 初めに、一人ひとりのあらゆる方面の認知レベルについて評価をし、スモールステップでの積み上げをして確立させていく。 レゴブロック等を使いながら、本人の強化子や学習スタイルを十分に理解したうえで、「できた」「経験できた」を積み重ねていく。 空間、時間、形、色、大きさ、反対の概念、等、その子どもに必要な、めばえのところから始め、「できた」を積み重ねていく。 こだわりや認知の偏りについては、その障害特性を理解し、本人にとって、苦しいもの、早く支援を行った方が良いことから、家庭と相談しながら無理なく進めていく。 ソーシャルストーリー等、その子どもに合う手法を使って、個別の中で指導をして、それを少しずつ違う支援者や友達に広げていくなど段階を踏んで指導していく。								
	言語 コミュニケーション	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等、体系的な言語の習得、自発的な発言を促していく。また、話しことばだけでなくカード等で相手に伝わった喜びを味わう。 話し言葉や各種の文字やカードやコミック会話、思いをイラストで描いていく、言語またはそれに代わるもの等を用いて、相手に思いを伝えたいということを大切にしていく。 個別でしっかりと支援をし、コミュニケーションの基礎能力を付けた後は、友達や小集団でのコミュニケーション能力の向上のための支援をしていく 絵しりとりや筆談等を通して、話し言葉のみでなく、色々な方法でのコミュニケーションの手段を獲得し、思いが相手に伝わらないいらだちを予防し、意思の疎通をしていく事の喜びを味わえるようにしていく。 強化子を用いたカルタや絵カード、絵本、動画などを利用し、楽しみながら、色々な字や記号に興味を持ち、読んでみようとしたり、線遊びから、無理なく少しずつひらがなやカタカナの文字を書いてみようとする。								
	人間関係 社会性	まずは、支援者と、一緒に楽しく遊ぶ、要求を満たしてあげる(わがままなこの見極めはつけながら)等して、信頼関係を築いていく。 また、親子の愛着関係が基礎になることを鑑みて、保護者との話や相談を通して、それが正しく築くことができるよう導いていく。そこから、少しずつ、友達との関わりに進んでいく。 自己の特性を知り、こだわり等でそれから離れられない時に、どうしていくかを支援者と考えたり、カムダウンや、深呼吸、他のことで気をそらせる等信頼できる支援者と一緒に行動の調整ができるようにしていく。 一人遊び、並行遊び、好きな遊びを通じて少しずつ友達とかかわる、玩具の共有、貸し借り、順番、譲る、協力、役割分担、負けの受け入れ、お互いの思い等、有効な支援方法により、少しずつ小集団の中でできるようにしていく。友達と一緒にいることが楽しい、という感覚が持てるようにしていく。								
家族支援	こどもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助、講座やペアレントトレーニング実施 家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助 レスパイトや就労等の預かりニーズに対応するための支援 保護者同士の交流の機会の提供(ピアの取組) きょうだいへの相談援助等の支援 子育てや障害等に関する情報提供 等	移行支援	保育所等への移行に向けた、移行先との調整、移行先との支援内容等の共有や支援方法の伝達、受入体制づくりへの協力や相談援助への対応等の支援 具体的な移行又は将来的な移行を見据えて支援目標や支援内容を設定しての本人への発達支援(※) 進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助や移行に向けての様々な準備の支援(※) 保育所等と併行利用を行っている場合の子どもに対し障害特性等を踏まえた一貫した支援を行うため、併行利用先等とこどもの状態や支援内容等についての情報共有や支援内容等(例:得意不得意やその背景の共有、声掛けのタイミング、コミュニケーション手段等)の擦り合わせを行う等の連携・支援の取組 地域の保育所等や子育て支援サークル、地域住民との交流 等							
地域支援・地域連携	こどもが通う保育所等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組(※) こどもを担当する保健師や、こどもが通う医療機関等との情報連携や調整等の取組 こどもに支援を行う発達障害者支援センターや医療的ケア児支援センター、地域生活支援拠点等との連携の取組 こどもが利用する相談支援事業所や障害福祉サービス事業所、他の障害児通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携の取組 等	職員の質の向上	毎月研修日を設け、障害者虐待防止法、身体拘束ガイドライン、倫理綱領、障がい特性等の研修を実施。 また、スキルアップや資格取得に必要な研修費用の助成等やOJTやOFF-JTへの開催や参加を促している。							
主な行事等	クリスマス会、ハロウィン、節分、社会科見学(博物館・消防署等)、おやつ作り、親子ワークショップ(アート制作等)、ペアレントトレーニング 外出(公園散策・図書館等)、誕生日会									